

# 令和6年度第1回島田市男女共同参画推進委員会 会議要録

## 1 日時

令和6年9月20日（金）19：00～21：00

## 2 場所

プラザおおるり 第1会議室

## 3 出席者

委員：犬塚委員、松浦委員、丸尾委員、木村委員、橋本委員、芝田委員

事務局：又平課長、田中課長補佐、天草会計年度任用職員、原田事務員（市民協働課）

## 4 内容

### (1)事務局紹介

### (2)市民協働課長あいさつ

### (3)報告事項

・資料1にしたがって、令和5年度男女共同参画推進事業報告について事務局より説明。

《質疑》

A 委員：資料にセミナーや講座の参加者の人数を記載すべきではないか。

事務局：次回より記載する。また人数については口頭により説明。男性育休セミナーは10社、13人が出席。性の多様性講座は約500人出席。性の多様性理解促進セミナーは24人出席。居場所づくり事業は17人出席。また女性相談については51件、デートDV講座は114人が参加した。

B 委員：講座等に関して実績については詳細がわかる情報や人数記載、性別による参加者数、またアンケートの集計結果があると定量的に判断が可能になる。また、性の多様性講座の出席者の500人とは、延べ人数か。

事務局：全職員が1回受講した。全5回の講座のうち1回ごと約100人が参加したため、500人は延べ人数である。

B 委員：島田市では様々な事業を実施しており、それらの事業には島田市の特色がある。市内だけでなく市外への発信も実施して欲しい。

・資料2にしたがって、令和6年度男女共同参画推進事業報告について事務局より説明。

《質疑》

C 委員：推進委員会、推進会議、推進会議幹事会とは何か。

事務局：推進委員会は現在実施している会議、推進会議は副市長を委員長として各部長により協議、推進会議幹事会は各課より担当職員により協議を行う。推進会議幹事会にて協議し、推進会議にて承認され、今回の推進委員会に挙げられている。

A 委員：男女共同参画講座の内容は既に決まっているのか。

事務局：男性育休と介護について実施予定。また、オンライン講座の実施も予定している。

A 委員：なぜ女性議会から女性フォーラムに変更になったのか。

事務局：前年度に女性議会参加者と「なぜ女性議会を実施するのか」を話したうえで、女性議会に参加者が集まらず、女性議会に出られるような人材を育成したほうがよいのではないかと考えたため。また、提案や提言ではなく要望ばかり出てきてしまうようになり、根本的な考えを育成する必要が出てきたため。

B 委員：島田市の事業として女性議会は大きな事業であり、目玉であると同時に一度原点に立ち返り女性議会を開催する理由、目的を考える必要がある。重要なことを決めていくにあたり女性の意見を反映させ、施策や取組に男女共同参画の視点を加えていかななくてはならない。

D 委員：島田市にとって女性が議員になることで女性の意見を政治に反映させたい、地方議員の担い手が少ない中で議員が増えてほしい、などの考えがあると思うが、具体的に目指す姿はあるのか。例えば議員のうち何割が女性であってほしいのか、年齢層はどれくらいの方に議員になってもらいたいのか。

事務局：具体的に目指す姿は決まっていないが、女性が意思決定をすることができるような役員の選出は進めている。まず、フォーラム等でステップを踏んで、最終的には女性議員になってもらえるような人材を育成したい。

B 委員：地方議会では近年女性議員は増加してきており、例えば杉並区や宝塚市などでは約半数が女性となっており、女性議員の少ない地域は危機感を持って対応すべきである。女性の意思決定が形になるのは3割と言われている。島田市も女性議員の多い地域の活動や取組を参考にしようか。

C 委員：クォータ制などは市で目標を目指すのは難しいのか。

B 委員：条例レベルでは可能かもしれないが市レベルでは難しい。市民レベルからボトムアップし、下から声を挙げられるようにすることが大切。

・性の多様性理解促進のための事業について、事務局より補足説明

《質疑》

B 委員：LGBTQ の方々のように女性にも様々な生き方をしている人がいる。情報発信を性の多様性と並行して行ってほしい。

・「未来を担う女性フォーラム～女性議会エピソード0～」について、事務局より説明。

《質疑》

C 委員：どのような方法で周知したのか。ポスターでの掲示はあったのか。

事務局：市のLINE、広報しまだ・ホームページへ掲載。ポスターでの掲示は行っていない。

C 委員：若い方の参加が少ないため、若い方が参加しやすいような周知方法が必要。

D 委員：島田市のDXが進んでおらず、LINEの通知がターゲット層に届いていないように思われる。しまいくなどの市の独自のシステムやInstagramの活用をしたらどうか。また、男女共同参画啓発事業について、政治の場に女性が入ることで良い方向に政治が動くと考えするため、政治へ焦点を当てていくのも良いのではないか。

E 委員：周知を強めたほうがよいのではないか。また、女性議会から女性フォーラムに変更することでどのような変化があったか。

事務局：参加者は従前に比べて増加したことは良い点としてあるが、改善点もあるためそれらを踏まえ改善していく。参加者にとって活躍している政治家の話聴くことは良かったと思うし、パネリストに好評だったため、来年度も実施していくことを考えている。若い女性の参加人数が少なかったことを踏まえ、周知方法については課題ではあるが、女性の人材育成に加え男性の意識改革に焦点を当てている部分もあったため、男性に聞いてもらえてよかったと思う。しまいくとの連携などは考えていきたい。

B 委員：様々な人に参加してもらうことは必要なことだが、課長の言うように、まず男性が気づくことが重要である。今の女性議員の方に加えて、これから目指す可能性がある人たちをどのようにして引っ張っていくのか。

A 委員：オンラインでの配信など、工夫があると本気で広めようとしていると思える。タイトルに「未来を担う」とあるが、パネリストの年齢が高い。また、若い世代にとっては関心が持てない。何か面白いと思えるような書き方や、コラボレーションにより若い世代を巻き込む必要がある。

F 委員：アンケートに回答していない参加者がいる。アンケートの回収が少ないのはなぜか。アンケート集計の結果をすべて信用してしまっているのか。

事務局：今年度は紙での回答以外でもlogoフォームによる回答を設けたが、それが逆効果だったかと思われる。

B 委員：アンケートの回収率を上げるにはその場で必ず書かせるべき。プログラムに組み込む必要がある。

・資料3・4・参考1・別冊1にしたがって、第3次男女共同参画行動計画実施計画の内部評価について事務局より説明。

《質疑》

E 委員：評価表としては良くなっているが、島田市として男女共同参画は進んでいるのか。市民はそう感じているのか。手段を考えて方向性を合わせるのが良いのではないか。

事務局：戦略推進課による意識調査があるが、男女平等であると考え人や、女性の社会進出を後押しする動きが広がってきていると思う人の割合に関してさほど変化はない。男女共同参画行動計画については各課があらゆる面から男女共同参画を推進していくために設定しているため、市民意識調査と一致しているとは言えない。

B 委員：男女共同参画行動計画というものは最終的に事業がどこまで到達したかを評価している。そのことと島田市で男女平等を感じる人が増えた、ということは必ずしもではないが因果関係はあまりない。ジェンダーギャップ指数などについては日本よりはるかに男女共同参画が遅れていても上位なことがある。なお、先進国間で比較することには長けており、その結果で見ると先進国の中では日本はかなり遅れているとわかる。

#### (4) 協議事項

・参考2・別冊2にしたがって、第4次男女共同参画行動計画実施計画について事務局より説明。

《質疑》

F 委員：資料2の事業と男女共同参画行動計画の一致はあるか。

事務局：資料2は市民協働課での女性活躍推進における事業で、男女共同参画行動計画とは基本的に対応していない。

A 委員：関係取組74「女性リーダーの育成事業や人材育成講座等の開催」における目標が、「女性の人材育成事業の参加者35人」とあるが、なぜ35人なのか。これより多くても良いのではないか。

事務局：前年度第10回女性議会の参加者の35人に基づいて目標設定をしている。今年度の女性フォーラムの参加者が60人で、人材育成講座を含めるとさらに増えることが考えられるので目標は見直していく。

D 委員：貧困だと移民と女性に対する虐待が増える。関係取組24の「ジェンダーに基づくあらゆる暴力根絶に向けた啓発活動」においてはぜひ頑張ってください

たい。

(5) その他

次回推進委員会は2月を予定しており、日程が確定し次第連絡することを伝え、事業への質問・意見のある事業についてはアンケートの提出を依頼した。

※連絡事項を伝え、閉会。